

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：32646

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520129

研究課題名（和文）ケンブリッジ大学所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on gagaku manuscripts of Kikutei family owned by Cambridge University Library

研究代表者

太田 暁子（OTA AKIKO）

東京音楽大学・音楽学部・講師

研究者番号：90399741

研究成果の概要（和文）：英国ケンブリッジ大学図書館所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料に関し、現地における基礎的調査を行うことよって、資料購入の経緯や現地での所蔵の状態、具体的な内訳等、所蔵資料群の概要を明らかにさせることができた。調査の過程において資料購入に関する周辺資料の存在およびその内容を確認することができたため、その検討も行うことよって、国内所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料との関係について一定の見解を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：Cambridge University library has gagaku manuscripts of Japanese court noble, the “Kikutei family”, but their details had been known to very little in Japan. Through our fundamental investigation in the Cambridge, we were able to recognize the circumstances of acquisition and the state of the present possession and the detailed contents, of the manuscripts.

And more, we were also able to find some other documents, which have great relations with the circumstances of acquiring the manuscripts. From inspecting for the documents, we have reached a conclusion that the Cambridge materials have a certain relation to the domestic ones of Kikutei family.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：芸術史・芸術一般

科研費の分科・細目：音楽学

キーワード：音楽学

## 1. 研究開始当初の背景

英国ケンブリッジ大学図書館には、菊亭家旧蔵の雅楽関係の楽譜や理論書が所蔵されている。菊亭家とは代々琵琶の演奏を家職とした公家で、歴代音楽をもって朝廷に仕えてきた。藤原氏北家閑院流西園寺家の庶流であり、初代兼季（西園寺実兼の四男、1281-1339）

が京都の今出川殿に住んだことから今出川を名乗った家系である。

菊亭家が所蔵していた膨大な資料群は、おもに京都大学や専修大学各図書館などが所蔵していることが知られており、そこには宮廷雅楽を伝える非常に重要な資料が多く含まれている。

しかしケンブリッジ大学図書館にも所蔵されているという事実やその詳細、所蔵に至った過程などについてはほとんど知られておらず、現地においても資料の詳細を把握しているとはいえない状態にあった。

## 2. 研究の目的

ケンブリッジ大学図書館が所蔵する菊亭家旧蔵雅楽関係資料に関し、現地における基礎的な資料調査にもとづいたうえで資料に関する事柄を可能な限り明らかにし、以降これらの資料の存在を前提として諸研究を行う指針となるような結果を残すことが、本研究の最大の目的である。

## 3. 研究の方法

現地で資料調査を行うことを第一の方法とし、資料の購入経緯や現地における所蔵および管理の状況、所蔵内訳やその内容を明らかにさせることを試みた。また諸資料の性質を知るために、適宜日本国内で所蔵している菊亭家旧蔵資料と対照させる等の補足的な並行作業を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 購入の経緯および所蔵状況について

英国ケンブリッジ大学図書館（以下ケンブリッジ）には、菊亭家旧蔵の雅楽関係の楽譜や理論書が所蔵されている。これらの資料は Laurence Picken（1909-2007）が購入したものであるが、ケンブリッジには購入の際にやりとりされた手紙や修理の納品書などが残されており、本研究の現地調査によって1969年から70年にかけて購入の手続き及び入手がなされたものであることが確認された。

前記資料によると1969年11月に Elling Eide が台湾から来日した際、京都の古書店で箱入りで売られていた雅楽の楽譜を見つけ、その旨を英国にいる Picken に手紙で紹介した。Picken は英国に居ながら直ちに購入手続きを開始し、修理を経たのち翌年5月に彼の手に届けられている。

Picken が資料入手直後に書いた Eide に対する謝礼の手紙がケンブリッジに遺されているが、そこには入手当時の素直な感動や、すぐに復元演奏を行った旨などが生き生きと記されており、この資料購入が2年後の1972年、Picken が雅楽資料調査のために3ヶ月来日することへと強く繋がっていったであろうことは想像に難くない。

購入された資料は1976年のケンブリッジ

大学蔵書印が押されており、その年は Picken がケンブリッジの Jesus Collage を退任する年に相当する。のちに彼は“Music from the Tang Court v. 1” (Oxford University Press, 1981) で「私は Collage から資金援助を受けてこのコレクションを購入することができた」と回想している。

### (2) 国内所蔵資料との比較

菊亭家旧蔵資料の主な所蔵先として知られている国内機関（所蔵年）と当該機関発表による所蔵数は、以下の通りである。

東京国立博物館（1893）	111 件 797 点
京都大学附属図書館（1921）	図書 872 部 1326 冊
京都大学附属図書館（1923）	図書 38 部 43 冊、文書 822 部
京都大学附属図書館（1952）	資料 112 点 988 冊
専修大学図書館（1970）	文書・典籍 3448 点

ほか、宮内庁書陵部、  
国立公文書館内閣文庫など

各機関に所蔵されている資料の内容は、詩歌、宮中・国家行事関係、日記や家記など、雅楽関係以外を含んだかなり広範囲にわたっている。

各機関の所蔵内訳を検討したところ、ケンブリッジの所蔵資料は、専修大学所蔵資料と内容の近いものが多いことが分かった。所蔵年も合わせて考慮した結果、ケンブリッジの資料は、おそらく専修蔵資料と時を同じくして菊亭家から出たものであり、のちに書店によって何らかの理由で選り分けられ、結果的に Picken は運良く目的の雅楽関係の楽譜や理論書に当たって入手できた可能性が高いと考えられる。

### (3) Picken Collection について

ケンブリッジ大学は Picken が所蔵していた書籍や楽器を Picken Collection として管理しており、うち書籍を図書館の音楽資料部が所蔵、楽器はケンブリッジ大学の Museum of Archaeology and Anthropology が所蔵している。

図書館が所蔵する書籍には Picken/1 を音楽一般、/2 を楽器一般、/3 を民族一般、/4 以降アメリカ、ヨーロッパなど、概ね地域や国別に分類番号を付している。ちなみに日本（和書）は/16、日本（洋書）は/17、そして/20 は雑文書、パンフレット、抜刷、/21 以

降が定期行物、叢書の類、/99 は未製本資料となっている。

Picken が入手した雅楽関係の紙による複製資料は/101、マイクロフィルム資料は/102として分類され、各資料には書架番号として枝番号を加えた番号が付いている。本研究の対象資料は/131 から始まるが、時折挟まれている空番号は分類当時、資料の性質が異なるために適宜桁を変えた可能性が高い。

(4) ケンブリッジ蔵菊亭家旧蔵資料について

本研究の対象とするケンブリッジの菊亭家旧蔵資料数は43点、54冊である。43点とはケンブリッジで予め付けられた書架番号によって数えた数、54冊は実際に存在する冊数である。

Picken/131~165、176~184の書架番号を付して整理され(166~175は欠番)、前者は和装本(和綴本、折本)34点、後者は卷子本9点となっており、各番号はおそらく図書館の蔵書印が押された1976年に付けられたと考えられる。図書館の音楽資料部は、これらの資料をPicken Manuscriptsと称し、Picken Collectionの一部として貴重資料の扱いで管理している。

以下の表がその内訳である。本研究の調査過程において、異なる資料であるにもかかわらず同一書架番号でまとめられていたり、組になっている資料が含まれることが分かりにくい書架番号であったりする例が確認された。そのためここでは適宜、ケンブリッジが付した番号に加えて新たに枝番号を付け、その箇所を[ ]で示した。従ってケンブリッジの書架では[ ]内の番号は存在しない。

現時点において、日本では見られないような特別に稀少な内容を持つ資料の存在が確認されたかということ、特にそうは思われず、おそらく内容に関しては国内資料にて賄えるものと考えている。ただし菊亭家旧蔵資料がケンブリッジに存在するという事実とその概要に関しては、日本国内においても広く認識しておく必要がある。

\*Picken/131~165は布張り帙入り。

Picken/166~175は欠番。

書架番号	外題[内題]	冊数/丁数/法量(纏)
Picken/	備考 「」引用 [ ]補遺 *所見	
131	催馬楽 箏 琵琶譜 *箏、箏、琵琶の付物譜。安名尊・席田・蓑山・伊勢海・更衣。末尾に琵琶譜(鳥破只拍子、鳥急、	1冊/21丁/14×20.5

	萬歳楽只拍子)。	
132	催馬楽 [三 仁筋畧譜/ 催馬楽] *箏、箏、琵琶の各譜を併記した付物譜。律調：伊勢海・更衣、呂調：安名尊・席田・蓑山。	1冊/12丁/11.5×12
133	催馬楽 *琵琶付物譜。安名尊・席田・伊勢海。	1冊/4丁/26.5×20
134	箏譜 *箏調絃(下老越調・上老越調・平調・双調・大食調・盤渉調)ほか。搔合、爪調等。	1冊/39丁/14×20.5
135	抜書/琵琶譜 *楽目録を押紙にて付加。西譜の補注あり。	1冊/34丁/22.5×15.5
136	秦箏譜 *箏呂律絃合、爪調、搔合等。	1冊/13丁/14×20
137	龍笛假名譜(奥書)「宝永元年[1704]甲申七月中旬/以自筆令書/正六位下行左近衛将監伯近貞」。	1冊/35丁/15×21
138	一(龍笛假名譜) 奥書1)「高房門下/左近衛権少将藤原誠季(花押)」。奥書2)「権中納言藤原朝臣誠季」。外題「譜」字のみ残存。*朱にて琵琶譜字あり。	1冊/63丁/15.5×20.5
139	一[横笛譜品] 表紙見返)「横笛譜品/不許=門/即明/用書」。*58丁に「日蓮宗大本山妙顕寺」の用紙による折紙一紙。	1冊/127丁/15×20
140	声明口伝全[声明口伝] 内題下)「大悲房説/金剛仏子深誉」。	1冊/19丁/15×23
141	— —*該当資料なし	—
142	一(箏譜) *外題内題なし。箏調絃等。見返に箏図あり	1冊/79丁/25×17.5
143	胡琴教録上 *教学琵琶付練習孝師、琵琶躰様、調比巴、取撥付當撥、差柱、撥音、諸調子品、十二律調、呂律分別、楽曲、催馬楽、撥合、手、案譜法、師伝相承。	1冊/62丁/27.5×20
144/1	琵琶譜 老越調/平調	1/2冊/47丁/10×14

	／双調 *琵琶中小曲譜	
144/2	琵琶譜 黄鐘調／盤 涉調／太食 調	2/2冊/36丁/10×14
145	琵琶譜 *琵琶中小曲譜（琵琶黄鐘調・風 香調・返風香調・返黄鐘調）。	1冊/68丁/28×20
146	樂曲訓法 〔樂曲訓法 全〕  奥書）「右一冊請借安倍季尚自筆 之／本而令写留校合者也尤不違 ／一字云々／于時寛文十〔1670〕 年 季夏後八／右京 = =」。	1冊/23丁/26×18
147	一〔箏譜〕  裏表紙右端）「宝曆六〔1756〕子二 月 山本善勝書拝上」。*尨越調・ 平調（含太食調）・盤涉調。	1帖/16.5×12
148	三五譜  表紙）「三五譜上」、裏表紙）「三 五譜下」（高麗から裏）。*尨越 調・平調・大食調・乞食調・黄鐘 調・水調・高麗尨越調。	1帖/16×11.5
149	鳳鳴譜 *笙中小曲譜。尨越調・平調・双 調・黄鐘調・盤涉調・太食調。	1冊/39丁/12.5×19
150	鳳笙秘譜 〔鳳笙秘 譜〕  *笙調子譜（尨越調・平調・双調・ 黄鐘調・盤涉調・太食調）。 奥書）「右鳳笙譜之調子入調最於 ／平調太食調者雖為秘中秘／山 中幸直年来懇望之因以／當家大 譜写而悉授與之永／密藏努々不 可有他見者也／文化九年〔1812〕 壬申仲秋日／正五位下行淡路守 ／太秦廣勝（花押）」。	1帖/12×8.5
151	蘆聲略譜 *箏築中小曲譜。尨越調・平調・ 太食調・双調・黄鐘調・盤涉調・ 高麗曲。*双調から裏。	1帖/16×11.5
152	合奏式 *曲名を押紙（5.7×1.4 糰）に個々 に記載し、調子ごとに並べた楽目 録。*尨越調・平調・双調・黄 鐘調・太食調・盤涉調・高麗尨越 調。	1帖/18×12.5
153	龍笛假名譜 平調／尨越 調／盤涉調 *龍笛中小曲譜。白紙多し。	1冊/144丁/15.5× 13.5
154	龍笛要録譜	1冊/121丁/16.5×

	拔書 表紙）「尨越調并沙陀調／平調／ 双調／黄鐘調并水調／盤涉調／ 太食調／乞食調／高麗尨越・平 調・双調」。*白紙多し。	14
155	龍笛假名譜 高麗調〔龍 笛假名譜 高麗調曲〕  奥書）「此一冊予依所望狛高房書 送畢（花押）」。	1冊/22丁/21×15
156/1	龍笛要録／ 尨越調 沙 陀調 平調 *楽目録の各曲題下に「別本有之」 として曲名のみ、秘曲等は譜を記 す。	1冊/28丁/20.5×14
156/2〔1〕	龍笛畧譜 *龍笛中小曲譜。	1冊/59丁/15×12
156/2〔2〕	龍笛畧譜 *龍笛中小曲譜。楽目録の各曲題 下に「近貞」「近寛」「高房」の書 込あり。	1冊/209丁/11.5× 16.5
157	〔鼉鼓當用 抄〕〔楽道 雜事記〕  奥書1）〔鼉鼓當用抄〕序あり。 「寛政壬子〔四年〕〔1792〕十月 中旬考撰／前大僧正隆範」。奥書 2）〔楽道雜事記〕「右此書者楽道 未習／之輩入此道之可為一助／ 寛政壬子〔1792〕十月中旬記之／ 畢／大乘院前大僧正／隆範」。* 「鼉鼓當用抄」と「楽道雜事記」 の合本。	1冊/31丁/7.5× 14.5
158	御遊 安名 尊 筵田 伊勢海／ 万歳樂 鳥 破急之事  奥書）「右催馬楽三首 安名尊 席田 伊勢海 之譜以三五要録 ／已下諸家譜新書聚所也但近代 譜 花園実廉卿所被改也件／譜 始注之 与古譜所々令相違 件 催馬楽久令中絶之間／音振頗違 古代仍延享〔1744-48〕之度花園実 廉卿被改云々／猶考歌方案譜可 加趣意者也／安永九年〔1780〕七 月 権大納言藤原実種」。*御遊に ついて體源鈔・続教訓抄・故琴教 録・文机談等の引用あり。催馬楽 琵琶付物譜。	1冊/28丁/27×19.5
159	苾築譜 箏 附 *箏築譜に箏譜を併記。平調曲（中	1冊/15丁/20×27.5

	小曲譜)。		
160[1]	[楽家録巻十一]	1/2 冊/48 丁/28×20.5	
	五丁オ)「楽家録巻之十一 安倍季尚編輯/筆策」。*虫損多し		
160[2]	[楽家録巻十三]	2/2 冊/31 丁/28×20.5	
	五丁オ)「楽家録巻之十三/三管総論」。*虫損多し		
161	胡琴鳳簫譜	1 冊/44 丁/21×15.5	
	表紙左下) 花押あり。*高麗壺越調曲。笛仮名譜に琵琶譜を併記。		
162[1/1]	龍笛仮名譜	1/2 冊/39 丁/23×16.5	
	*162/1~6 は同帙内。壺越 ~ 双調。		
162[1/2]	龍笛仮名譜	2/2 冊/31 丁/23×16.5	
	*162/1/1 と二冊組。黄鐘 ~ 太食。		
162[2]	龍笛仮名譜	1 冊/13 丁/15×41	
	*高麗曲のみ。仮名譜に笛孔名を朱にて併記。		
162[3]	龍笛仮名譜	1 冊/69 丁/23×16.5	
	全 題下)「光子」。*笛唱歌に箏譜を青字で併記。最終丁に「光子」印。		
162[4]	龍笛仮名譜	1 冊/69 丁/23×16.5	
	全 外題下)「禎子」。*内容は光子譜にほぼ同じ。		
162[5]	龍笛仮名譜	1 冊/25 丁/15×22	
	壺越調 *笛は仮名譜のみ。春鶯轉颯踏・入破、賀殿破急まで朱にて琵琶譜を併記。		
163	胡琴要略	1 冊/19 丁/13.5×20.5	
	*琵琶の調絃や音律に関する書。切紙一紙(楽理について)あり。		
164[1]	卷之四/箏譜	1 冊/5 丁/15×23	
	黄鐘調 *安城楽・河南浦・蓮華楽。本文中に「此間きれて有」。		
164[2]	卷之七/箏譜	1 冊/18 丁/15×23	
	高麗曲 *高麗曲のみ。朱あり。「箏大食調 平調 双調 在奥」。		
165[1]	壺越調曲	1 冊/49 丁/15.5×22.5	
	以 [註大家龍笛要録譜] 表紙) 朱にて「一校了」。内題下)「從五位下行左近衛將監大神宿称景光」。*165[2]と同内容の別本。予め2冊まとめて165の書架番号が付されていたため、[1][2]の枝番号を付けた。		
165[2]	壺越調曲	1 冊/49 丁/15.5×22	
	[註大家龍笛要録譜] *内容は165/1に同じ。		
176	琵琶譜	1 軸/26.5×	
	*前欠か。表紙見返しと本文の間に一紙増補、押紙二枚貼付。押紙1)「琵琶催馬楽 後伏見殿備用」、以下、押紙2)に楽目録(23曲)あり。*本文は壺越調河曲子以下、唐楽・高麗楽の琵琶譜のみ。催馬楽譜なし。		
177	琵琶 催馬楽呂律譜	1 軸/20×	
	外題)「催馬楽呂律譜 比巴」。末尾)弘安八年[1285]、正和四年[1315]の御遊記事の後「此奥破損」。*琵琶付物譜(安名尊・席田・伊勢海)。		
178	東儀因幡守琵琶譜之写	1 軸/18×	
	永禄 *琵琶譜(平調・盤涉調)。太平楽急が平調曲にあり。蘇合香四帖「奥切三帖用之口伝有之」。奥書1)甘州の後「永禄九年[1566]九月日 義因幡守/兼康」。奥書2)想夫恋の後「永禄九年八月日」。奥書3)盤涉調越殿楽の後「永禄九年九月日/大秦朝臣東儀因幡守/兼康」。		
179	萬秋楽蘇合香龍笛譜	1 軸/28×	
	近貞伝授 奥書)右両曲之譜 依 内大臣殿御所/望家傳之説々不残之令謄写奉/進献者也 蘇合香者元禄十二[1699]之秋 奉左近衛將監近方相傳之萬秋楽者近貞/宝永第四[1707]黄鐘仲旬 奉授之訖矣 宝永五[1708]戌子曆林鐘下院/從五位下行左近衛將監伯宿祢近貞(花押)。*萬穉楽・蘇合香の龍笛伝授譜。		
180	催馬楽譜	1 軸/28.3×	
	歌 *歌詞のみ。外題は「催馬楽」だが、内容はすべて風俗歌。		
181	和歌披講	1 軸/20×	
	朗詠 東遊 駿河舞/求子譜 四卷之内 *きみか代(博士+箏譜)、嘉辰令月(博士+五音名)、東遊:駿河歌・求子歌(博士+笛孔名)。 [四卷之内の四巻と Picken/181~184		

	を指す]	
182	神楽譜 箏 箏／笛／歌 方	1軸/20×
	*「内侍所御神楽異次第」あり。 箏箏譜、神楽歌譜（博士＋笛孔名）。	
183	春鶯囀 急 聲 舞案譜 舞人挿頭之 事 四卷之 内	1軸/20×
	*春鶯囀急聲舞譜、舞案譜、舞人挿頭。	
184	琵琶 和琴 鞆鼓 太鼓 鉦鼓等譜／ 笙調之事 箏箏譜	1軸/20×
	*琵琶（三五要略本譜説：上原・石上流泉・撥合等）、和琴（調絃、越天樂盤渉・五常楽等琴譜）、箏（調絃・五常楽譜）、鞆鼓譜、太鼓譜（笙譜に併記）、鉦鼓譜、甲乙之音次第、立舌作法、調作法（笙）、箏箏譜（賀殿急・胡飲酒破等）。	

・研究協力者  
近藤静乃（KONDO SHIZUNO）  
東京藝術大学・音楽学部・講師  
研究者番号：00548331

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

太田暁子、ケンブリッジ大学所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料について、東京音楽大学研究紀要、査読無、第35集、2011、pp.47-66

〔学会発表〕（計1件）

太田暁子、近藤静乃、ケンブリッジ大学所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料に関する調査研究、東洋音楽学会第61回大会、2010

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

太田暁子（OTA AKIKO）  
東京音楽大学・音楽学部・講師  
研究者番号：90399741

##### (2) 研究分担者

遠藤徹（ENDO TORU）  
東京学芸大学・連合学校教育学研究科・  
准教授  
研究者番号：10313280